

【短報】東京都におけるクシヒゲタマキノコムシ属3種の採集例

筆者の手もとに東京都で採集したクシヒゲタマキノコムシ属3種があるので、以下のように記録しておく。今回報告する3種はともによく似るが、♂交尾器の形態のほか、上翅の点刻列の状態、前胸背板の形状および微細印刻の有無などによって区別できる(保科, 1999)。

すべての個体は、倒木や立ち枯れ上の変形菌の子実体の周辺より筆者が採集した。標本はいずれも筆者が保管している。

1. ズモンクシヒゲタマキノコムシ *Anisotoma annae* Švec, 1992

1♂1♀, 東京都西多摩郡奥多摩町日原金袋山(標高約1,300 m), 24. VIII. 2007.

東京都初記録。本種は1♂によって記載されたが、タイプ産地に関しては「日本」である以外の情報は原記載にはない。北海道, 本州, 四国, 九州から分布情報がある(保科, 1999; 保科ら, 2003)。

2. オビスジクシヒゲタマキノコムシ *Anisotoma didymata* (Portevin, 1927)

1♀, 東京都西多摩郡奥多摩町日原一石山~人形山(標高1,000~1,100 m), 12. VI. 2010; 1♀, 同地, 9. VII. 2011; 2♂♂, 同地, 8. VI. 2012.

奥多摩町からは、芳賀(2007)による既記録がある。中禅寺をタイプ産地とする種である。♂を含む5個体で記載された。北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬から分布情報がある(保科, 1999)。

3. コゲチャクシヒゲタマキノコムシ *Anisotoma frontalis* (Portevin, 1927)

2♂♂2♀♀, 東京都西多摩郡奥多摩町日原一石山~人形山(標高1,000~1,100 m), 9. VII. 2011; 5♂♂5♀♀, 御蔵島村里, 5~7. VII. 2012.

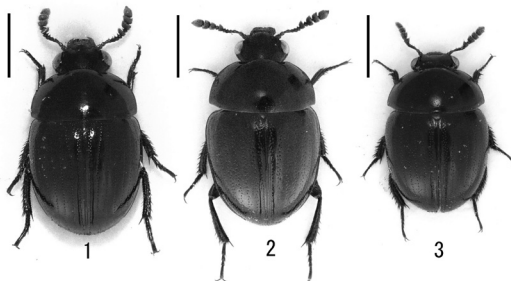


図1-3. クシヒゲタマキノコムシ属。1, ズモンクシヒゲタマキノコムシ(奥多摩町産); 2, オビスジクシヒゲタマキノコムシ(奥多摩町産); 3, コゲチャクシヒゲタマキノコムシ(御蔵島産)。スケールはすべて1 mm。

東京都からは野村(2011)による奥多摩町, 宇佐美ら(2011)による日の出町からの既記録がある。また、本種は1♂によって記載されたが、そのタイプ産地は東京近郊である(前種とともにタイプはガロアによってもたされたもの)。

これまで、本州, 四国, 九州から知られていた(保科, 1999)。伊豆諸島および御蔵島からは初記録。御蔵島での調査は、許可を得て行った。

引用文献

- 芳賀 馨, 2007. 1970-90年代に奥多摩で採集した甲虫類。うすばしろ, 35: 1-46.
- 保科英人, 1999. 日本産タマキノコムシ科メモリアル。ねじればね, (85): 6-9.
- 保科英人・佐々治寛之・高橋直樹・牛嶋啓明, 2003. 2002年石川県白山系で採集された甲虫類 付 オオキノコムシ科昆虫の1新種の記載。福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」, (10): 15-39.
- 野村周平, 2011. FIT かけある記 その4: 虫屋の手が及んでいない領域へ。月刊むし, (482): 33-40.
- Portevin, G., 1927. Les Liodidae du Japon. Pp. 73-94. In: P. Lesne(editor): Coleoptera, études sur les insectes Coléoptères. In: Encyclopédie entomologique. Série B. Mémoires et notes. Tome II.[1926-1927]. Paris: Lechevalier, 201+1pp.
- Švec, Z., 1992. On two palaeartic *Anisotoma* (Coleoptera, Leiodidae). Annotationes Zoologicae et Botanicae, 209: 1-5.
- 宇佐美均・大村信一・大脇 真・川上洋一・杉村健一・武智昭一・筒井 謙・原島真二・森川清志, 2011. 文化財総合的把握モデル事業 生物調査 昆虫調査報告書[2010], Pp. 82-234. 東京都日の出町, 日の出町歴史文化基本構想 73pp, 付属 CD 内。

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

【短報】伊豆大島からのアリガタハネカクシ亜科 Pinophilini 族2種の記録

伊豆大島においてハネカクシ科の甲虫が調べられたのは、ほかの昆虫と比較しても歴史は浅くなく、古くは戦前に安立(1937)が11種を報告している。ただし、その後はSawada(1971)による海岸性種の追加などがあるが、あまり情報が付加されることがなく、今日に至っている。

筆者の一人、亀澤は2012年10月1日~4日の期間、同島において調査を行い、以下の2種を得ているので報告する。報告に先立ち、情報をお寄せいただいた大林隆司氏と岸本年郎博士、ならびに問い合わせに応じてくださった山本周平氏に深謝する。学名はHerman(2010)に、和名は柴田ら(2013)に従った。